



活力湧き出る みどり美しい 水のまち 京極町



京極町基礎データ

総人口	2,925人 (住民基本台帳 令和3年1月)	製造品出荷額等 (総額)	5,597,880千円 (2019年 工業統計)
老齢人口	1,033人	卸・小売年間販売額	2,347,000千円 (経済センサス 平成28年度)
世帯数	1,459戸	一般会計規模	4,133,420千円 (令和2年度)
人口密度	12.64人/km ²	町の花	ひまわり
面積	231.49平方キロメートル	町の木	ミズナラ
農業算出額	2,130,314千円 (農業産出額推計 令和2年度)		

京極町の紹介

京極町は、「蝦夷富士」とも呼ばれる雄大な羊蹄山(標高1,898m)の東側のすそ野に広がり、札幌市と、ニセコエリアに隣接しています。

羊蹄山からの湧き水で知られる「ふきだし公園」は、京極町の観光名所となっています。

夏の気温は30℃以上、真冬は-20℃ほどになり、最深積雪量は2mを超える道内でも有数の豪雪地帯です。

2017年には、町名の由来に係る香川県丸亀市と「親子都市協定」を締結し、子供達の相互派遣などの交流を展開しています。



ふきだし公園湧水口 (湧水の滝)

京極町の歴史

「京極」の地名は、明治30年(1897年)、現在の町内に農場を開いた旧讚岐丸亀藩(四国・香川県丸亀市)の藩主・京極高徳子爵に由来します。

京極農場などによる本格的な開拓にはじまり、鉄鉱山が発見され、大正8年(1919年)には日本製鋼所倶知安鉄業所が操業を開始します。こうした開発を進めるため倶知安～京極13.4kmの線路が敷設され、昭和の初めには伊達市までの路線「胆振線」が開通し、京極町の発展を支えていました。

昭和13年(1938年)には京極農場が小作人に開放されたことをきっかけにその2年後に村名を「東倶知安村」から「京極村」に改めました。

しかし、昭和44年(1969年)の鉄鉱山の閉山に伴い、人口減少に拍車がかかり、昭和61年(1986年)には国鉄胆振線がバス転換されました。

こうした中、昭和60年(1985年)には「ふきだし湧水」が環境庁の名水百選に選ばれるなど「湧き水」が町民の心のよりどころ

なっています。このため京極町は、町の活性化、美しい景観の維持等を目的として、平成20年（2008年）に、「羊蹄山麓の農村風景」、「京極のふきだし湧水」を地域資源として「日本で最も美しい村」連合に加盟し、「名水の郷」としてのまちづくりを進めています。

「感動の京極町」

京極町のふきだし湧水は、羊蹄山に降った雨や雪が地下に浸透し、数十年の歳月をかけて京極町に湧き出た超軟水で、適度にミネラルを含んだまろやかな味と、水温が6℃前後と一年を通して変わらないのが特徴です。30万人分の水道使用量に相当する1日8万トンもの水が湧き出しています。環境庁（現・環境省）の「名水百選」に選定されたのをきっかけに、名水プラザなど「ふきだし公園」の整備が進められました。

ふきだし湧水を使用して、ミネラルウォーターやコーヒーなどの飲料水、氷やゼリー、酒などが製造され、大手コンビニエンスストアなどを通じて、全国でも販売されています。町内の簡易水道は、ふきだし湧水が源泉ですので、飲食店でのグルメやスイーツなども名水の風味が生かされています。

こうした「名水の郷」を次の世代に引き継ぐため「北海道の水資源を未来につなぐ価値共創プロジェクト」に参加し、ふきだし湧水の水源地を守るために公園周辺の公有地化に伴う造林事業などを北海道の協力を得て「企業版ふるさと納税」による企業からの寄付金により実施しています。

この他、去年は、乗馬体験施設がオープンしました。羊蹄山の絶景を望み、緑の香りとさわやかな風を感じながら優雅に乗馬体験が出来ること好評です。



自然の中で大人から子どもまで楽しめる乗馬体験に是非お立ち寄りください。

こうした観光振興などを通じて、町民の皆様に京極町が持つ魅力をもっと見つめ直し、引き出していただくため、日常生活に潜む「感動」を大事にしていきたいと考えています。

そして国内外から本町を訪れる方々には、豊かで四季折々の自然とのふれあい、町民との交流を通じて一緒に「感動」を味わっていただくことができるようなまちづくりを進めていきたいと考えています。

京極町の農業

京極町の基幹産業である農業は、羊蹄山がもたらす伏流水や肥沃な土壌と、昼夜の寒暖差が大きい気象条件が馬鈴薯の生育に適していて、国内有数の産地となっています。

なかでも、主品種の男爵は、「ようてい男爵」ブランドとして、でんぷん質が高く甘みのある味わいが高い評価を受けていて、本州各地に出荷されています。

林業は、町内面積の8割を占める森林による「ようていカラマツ」が高い強度と味わい深い色合いが評価され東京五輪が行われる有明アリーナにも利用されています。

こうした資材としてだけでなく、災害防止、温暖化防止、生物多様性…といった多面的機

能を持つ森林は、京極町の大切な財産である水資源を守るために欠かすことのできないものであり、循環利用できる環境整備を進めているところです。



馬鈴薯収穫のようす

京極町の再生可能エネルギー

京極町における再生可能エネルギー資源は、町内を流れる清流、尻別川水系の河川が育む豊富な水資源を利用して北海道電力(株)が水力発電を行っています。

この京極発電所は道内で唯一の純揚水式の水力発電で、尻別川水系ペーペナイ川上流部のダムの水を北側台地上に設置された調整池にくみ上げてから、下部のダムとの落差約400mを利用して発電する揚水式です。現在は2つの発電機で最大出力は40万kwとなっています。

平成30年(2018年)9月に発生した北海道全域のブラックアウトでは、電力供給の復旧を図る発電所の1つとして稼働しました。このほか北海道電力(株)の「寒別発電所」、ほくでんエコエナジー(株)の「京極名水の郷発電所」も水力発電を行っています。

その他の再生可能エネルギーについても、地熱発電や小水力発電の可能性調査が民間企業により進められているところです。



京極発電所

住みやすいまち京極町

移住・定住支援としては、京極町に定住したい方への支援として、京極町に住宅を取得した場合に最大で120万円を助成しています。

また、共同賃貸住宅建設の固定資産税減免や補助金での支援も行っています。

子育て支援としては、学童保育所の開設、第2子以降の保育料の無償化、第1子の学校給食の免除、高校生までの医療費無償化のほか、高校生の就学支援など様々な子育て支援に取り組んでいます。

また、今年度からは不妊治療の拡充にも取り組んでまいります。

「名水の郷へ」

「ひがしようてい」京極町にぜひお越しいただき、名水を存分に味わってみてください。お待ちしております。

京極町の四季



【春】アスパラガスと羊蹄山



【夏】朝霧のふきだし公園



【秋】紅葉のふきだし公園



【冬】厳冬期の除排雪風景